

	評価項目	自己評価			学校関係者評価		
		重点事項	評価	判断根拠	重点事項	評価	評価理由・改善点・その他
1	学校教育目標や学校経営方針・重点目標は分かりやすく、適切である。(目標・方針の設定)		B	どんな学校を目指すのかわかりやすく具体的な内容であるため、理解しやすく、共通理解が図りやすい。人権教育を大切にしているという学校目標について、その方針を教職員がいろいろな場所で話できるようにしていきたい。		B	・わかりやすく具体的な内容であることが良い。全職員が同じ方を向いて引き続き一丸となって取り組んでいかれることを期待するとともに、子どもたちの将来につながる大切な3年間のご指導を今後とも期待します。 ・入学時にいただいた「保存版よくわかる男山中学校」が読みやすく、わかりやすい内容でした。
2	学校教育目標や重点目標の達成に向けて、日々の活動に具体的に取り組んでいる。(目標達成の具体化)	◎	B	人権教育を大切に教育活動を行っており、生徒の実態や地域の様子等を加味したうえで、日々の教育活動全般に取り組むことが概ねできている。ただ、形式的に取り組んでしまっている活動がいくつかあると思うので、一定達成はしているものの、あまりイメージや共有ができていないものもある。現状に見合った、臨機応変な対応と活動が必要になってくる。	◎	B	・具体的にどのような活動を行っているのか見えない部分があるので、形式的に取り組まれているという部分を見直し、改善についての具体的な手立てを検討していただきたい。 ・あまり高い目標をもつと、かえって重荷となってしまう可能性もあり、達成可能な目標を積み重ねていくべきでは。
3	どの子どもにも分かりやすく、魅力のある授業が行われている。(確かな学力の定着)	◎	B	生徒の実態に合わせてスモールステップを積み重ねる授業や授業の流れを固定し、活動内容を明確化したりと工夫をしたうえで授業や手立てを行っている。そのような中、魅力のある授業と確かな学力の定着を促す授業のバランスが難しく、結果的に学力テスト等の結果には繋がらないことも多い。	◎	B	・授業の流れを固定して、どの生徒にも理解できるよう工夫していけば、学力テストでの結果にもつながると思う。繰り返しがとても重要だと思う。 ・魅力ある授業を行うため、教師の資質向上につながる取り組みや研修の充実に取り続き務めていただきたい。また、魅力ある授業で学力向上のバランスがとりにくいのであればどちらかに絞っていく方が良いのではと感じる。
4	子ども一人ひとりの個性と能力に応じた教育が行われている。(個に応じた指導)		B	少人数授業、ふりスタなどの補充学習、様々な個別支援等の個に応じた指導がなされていると思う。子どもの発達段階に応じた言葉かけや支援を行うことや通級指導教室やさつき教室への通室など、様々な方法で個々に応じた教育をしている。また加配教員等の活用により、多くの生徒に個別の指導・支援を行うことができていた。さらにその対応には教師の共通理解が必要であるが、その連携が不十分な点も見られ、教師間の意思疎通をさらに図っていきたい。		B	・発達段階に応じた支援を行うことで自身の力になり、がんばる意欲が生まれると思う。 ・少人数授業、個別指導、補充学習などが充実している。教師間のコミュニケーションも大事なのでしっかりできるようにお願いしたい。 ・個に応じた指導があまりにも多様化しすぎて、先生方が追いついていない様子がうかがえます。
5	運動会、体育大会等の学校行事は充実したものとなっている。(学校行事)		B	大きな行事が依然と比べて縮小された形にはなっているが取り組みもふくめて、全員でやろうという雰囲気や意欲があった充実したものになっていると感じる。・自己有用感の育成や、成功体験の場として、多くの生徒にとって良い機会となった。ただ、走ることや歌うことに苦手意識を抱え、「ただやらされている感」の生徒への対応策は今後の課題。		B	・教師の働き方改革など、コロナ前と比べて状況が変化していることは十分理解しているが、生徒にとってどうなのかということを第一に考え、内容を検討いただければと感じた。 ・全員満足というのは大変難しい。全員でやろうという意欲が充実しているのが素晴らしい。 ・体育大会にも様々な工夫をされていると感じました。生徒のみなさんも楽しみながら頑張っていたり、保護者の方もたくさん来られ、熱心に応援されている様子でとても良い雰囲気でした。
6	いじめの防止や早期対応等について、適切に対応できる体制がつけられ、取り組んでいる。(いじめ問題への対応)	◎	A	いじめ事象が全くないという意味ではなく、帽子や早期発見対応についてしっかり取り組んでいるという意味で評価できる。年に2回のいじめアンケートと聞き取り+1日ごろから見取りで子どもたちの様子を適宜キャッチできている。また、教師間での情報の共有がされていて、未然に防ぐ、また早期に発見しようとしている。定期的にいじめ対策会議が開催され、意見交換が行われている。また、SCやSSW、学級、学年、部活等の情報共有を大切に、問題事象に対する早期対応ができる。	◎	A	・問題行動については早期発見と早期対応が何よりも重要だと思う。生徒や保護者地域住民とのコミュニケーションを深め、多くの目で見守っていただきたい。先生たちの情報の共有や早期発見の取組により、いじめ事象は認知されているが、実際にいじめは起きていることを忘れずに。
7	保護者・地域にいつでも開かれている。(開かれた学校)		B	保護者や地域みなさんの声が遮断されることなく通りやすい環境であり、保護者の方が来校しやすい雰囲気があると感じる。授業参観だけでなく、小中連絡会等で学校内の様子を見てもらう機会を設けているが、学校公開の回数が、まだ完全に回復していない。		B	・学校にはためらいなく行きやすいという意見もあり、なんとなく、小学校に比べると足を運び(入り)にくいといった声を耳にすることもあるとのこと。 ・絆フェスタに参加させていただき、地域に開かれた学校であることを感じた。 ・さらに学校公開等の回数を増やして、風通しの良い学校にしてください。
8	教育活動が地域社会に十分わかるような広報活動を行っている。(教育情報の発信)		B	ホームページや学校だより、学年通信、学級通信など、細かな情報まで発信されている。保護者に配布物を渡さない生徒が見受けられるため、メール等で保護者に直接届くシステムの構築も必要。今後「テトル」の活用が待たれる。		B	・学級通信を読むと、先生がどんな人か見えた安心します。日々の業務で忙しいとは思いますが頑張ってください。発信していただきたいです。 ・子どもが保護者に配布物を渡し忘れる、学校に忘れて帰るなどの声をよく聞きます。「テトル」等の活用でスマホに直接共有していただくシステムを早めに作っていただきたいです。
9	保護者からの電話対応や来校者に丁寧に対応している。(来校者への対応)		B	様々なケースの電話や連絡がくる中、学校にできる最大限の対応を意識することができており、それぞれの教員が丁寧に対応している。また、言葉遣いや挨拶、教師側から声をかけ等、意識的に関係構築に努めている。6時以降に電話対応ができないことなど保護者にも一定の理解を得ることができている。		A	・質問や確認したいことがあっても何となく気軽に連絡しづらいといった声が上がっている反面、熱心な先生が多く、知らない先生もよく声をかけてくれますという声も。 ・時間外対応についてはしっかり保護者に説明して理解していただけたらと思います。
10	清掃活動や環境美化に力を入れ、校内の環境は快適である。(環境美化)		B	毎朝、たくさんの教師が掃除をし、掃除の大切さを率先して行動することで伝えられていると思う。また、担任を中心に教室の美化に努め、全体的には良い環境だが、トイレや非常階段等の環境美化にも努めたい。場所によって差がある。生徒の清掃活動への意欲ももっと上げていく必要がある。		B	・いつもきれいだなあと感じます。先生方のご努力に頭が下がります。ただ、場所によってはいつ掃除したのかと思うところもあり、何度も利用させていただいているトイレや体育館も環境美化に努めてほしいです。 ・トイレや非常階段は順番性にして実施、教師と生徒がもっと一緒に掃除などする機会を増やしてみてもどうでしょうか。

【評価】 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった N:答えられない(ノーアンサー)

【重点事項】 ◎:特に重点的に取り組んでいる事柄(自己評価)、重点的に取り組む必要のある事柄(学校関係者評価)